

4組HY(女)：ヘレンケラーの名言「目が見えないことは不便だけど不幸ではない」という名言と、「不幸ではないけど不便」という二つの言葉を教えてもらって、その不便をちょっとでも助けることによってなくしていければいいなと思いました。

6組FT(男)：障がい者はできることが限られていると思うので、そういうときに僕たちが。平田先生の話聞いて自分が思ったことは、くじけそうになっても僕たちが助けるので頑張って、自分なりに生活してくださいと思います。それが平田さんや他の障がい者の仕事だと思います。別に仕事なんてできなくてもいいと僕は思います。理由は仕事ができるからといって、友達を支えてくれる人がいなければ意味がないので、人間関係を上手く、今以上に優先した方が僕はいいと思います。

6組MU(女)：私は盲導犬ユーザーの平田さんの話を聞いて、私も一回、ネットとかで盲導犬について調べたことがあったけれど、それは盲導犬自体のことについてだったので、実際ユーザーさんから話を聞いて、一緒に歩いたりするときは大きな声で話してほしいなど、初めて知ったことがたくさんありました。

3組ED(女)：私は目が見えない人だけだと思っていたけれど、話を聞いて、目が見えにくい人がいることを知りました。駅とかでの話を聞いて、目が見えにくい人のことをもっと知っていれば、みんな分かち合えると思いました。

6組KH(男)：橋本さんの話を聞いて、自転車に乗ってるときに、目の見えない人の後ろを何も言わずに通る過ぎないでくださいみたいなことを言われて、そういうことをしたこと

が小学校の時に何回かあったから、それをこれから気をつけようと思いました。

3組YM(女)：今までは目が不自由な人の存在が遠く感じられていましたが、実際に目が不自由な人がお話しに来てくれたことで、だんだん身近に感じられるようになりました。

6組FT(男)：僕は視覚障がい者は、あまり何も自分でできないと思っていたけど、盲導犬と一緒に生活していて、何かすごいと思いました。

1組ST(男)：目が見えない人は何もできないという考えがあったけど、目が見えない人も一人でできることだってあるのに、何もできない人みたいにされたら嫌な気持ちになると思うので、そう思いました。

2組KT(女)：盲導犬は何でもできるわけじゃないと聞いて、その通りだと思いました。私は今まで「盲導犬イコール完璧」という考えを勝手に持ってしまったって、助けなんていらなと思ってしまっていたんですけど、ちゃんとした正しい認識をもっていきたいと思いました。

2組OB(女)：盲導犬ユーザーの方や目が見えにくい人たちは、何かすごく自分的には、そういう関わりとかも全然なかったから、関係ないものだと思ってたんですけど、平田さんや橋本先生のお話を聴いて、自分もそういう方と関わることもあるかもしれないし、自分たちが何か身近なことでもしていったら、何か少しでも助けになれるんだなっていうことを感じました。

4組UM(女)：EDさんの意見？感想っていう

んかな、私も同じことを思ってて、目の見えにくい人のことをもっと知れば分かち合えるって言ったと思うんですけど、私も学習を通して、もっと全盲の人とか、見えにくい人のことをもっと知ろうと思いました。以上です。

3組MY(男)：目が見えないことは不便だけど、それを解消してくれるための道具がたくさんあると知って、僕は目の見えない人でも快適に過ごせるってということが分かったので、少し安心できました。

5組KH：私は平田さんの話を聞いて、少しの差でいつも通る道でも、まったく別のものになるところが印象に残りました。私たちは、風が強かろうが車が多かろうが、大丈夫だけど、平田さんたち目の見えない人は感覚だけが頼りだから、少しの変化で大きな影響があって大変だと思いました。でも、ウーゴちゃんたち盲導犬といることで安心してられるのかなと思いました。

5組NG(男)：橋本さんたちの話を聞いて、目の見えない人や見えにくい人たちのことを障がい者と呼びたくなくなりました。

4組HS(女)：先ほどの、目の見えない人を障がい者と呼びたくないって意見に、すごく感動しました。私も、害を持っている人ではなく、同じ人間として、分かち合って生きていきたいと思いました。

3組ED(女)：私は橋本先生の、世の中は目に見えている人に合わせすぎているという話を聞いて、とても共感しました。なので、一人一人が、目が見えない人のことを知っていき、そして世の中を変えていくことが大事だと思います。

5組KH(女)：私は橋本先生のお話を聴いて、

視覚障がい者の人は周りの音をよく聞いて横断歩道を渡るので、周りの人が信号無視をしたりすると、視覚障がいの人が大きな事故に遭ってしまうということが心に残りました。基本的な交通ルールを守ることが視覚障がい者の命を守ることにつながると思いました。

1組KK(女)：私が心に残っていることは、ヘレンケラーが言った名言で、「目が見えないことは不便であるが、不幸ではない」です。今まで学習したことを見てみると、不便ではあることは確かにありましたが、周りの人が助けてくれたり手伝ってくれたりするので、不幸ではないのかなと思いました。

《自分はどんなことをしたいと思ったか》

6組FT(男)：これからはもっともっと周りを見て人の役に立つ。そして人に喜んでもらえるような人になりたいと思いました。

5組NG(男)：目が見える人の観点じゃなくて、目が見えない人の観点から物を作ってくれたらいいなと思いました。

2組NN(男)：一番は、困ってる人に声をかけて助けられることだけど、実際それが本当にできるかどうかは、分かりません。僕は最近学校の帰りの時に、家の近くに、自転車に乗ろうとしているおじいさんがいて、大丈夫だろうかと思いつつも、何かあったら他の人が助けてくれるだろうと思ってしまいました。でも、ガシャンという音がして、おじいさんがこけてしまったので、とっさに大丈夫ですかと声をかけることができました。きっと人権学習を通して、友達や周囲の意見を聞いて人権の意識が深まっていたので、とっさに声をかけることができたのだと思います。もし次にまた困っていたら、他の人が助けるだろうと素通りするのではなく、困っているだろ

うかと考え、できるかどうかは自分次第ですが、声をかけられるよう頑張っていきたいです。人権学習にふれ、いざというときに助けられるようにすることが大切だと思います。目の前に山積みになった課題を終わらせるように、世の中にも山積みになった問題があると思うので、それをなくしていけるよう努力しなければいけないなと思いました。

2組OB(女)：私はよく身近な人で苦手だなどという人がいたりして、意識的に避けたりとか、そういうふうにしてしまったりすることがあって、それが差別とか、そういうふうになって、それも目の見えない方とかにしていることと同じような感じになるんだらうなっていうふうに、人権の学習を通して感じて。だから、そんなに急に、よけないようにとか、平等にとか、そういうのはできないかもしれないけど、でもそれをできるように、自分から何かしたりとか、そういうふうなことをもっと増やして、もっと誰にでも寄り添えるような、そんなふうな自分になりたいなと思っていました。

5組NG(男)：自分は目が見えない人も目が見える人と同じように平等に接してあげたいなと思いました。

2組TT(女)：まず、私にできることは何かと考えました。私は困っている人に声をかけられるのか、それは私にとってはとても勇気を出さなくてははいけない。それに、パニックになってしまうかもしれないです。ではどうすればいいのか。たとえば、お店で困っているなら店員さんに。どうしても声をかけるのが怖かったら近くの大人や他の人に伝えるとか、とにかく手助けをしたらと思って行動したいです。他にも、いろいろなことを学習して、他の方法を知って行って、私が考える、私ができる最大のことをしていきたいです。

6組MU(女)：私は平田さんや橋本さんが言っていた、もし町中で白杖を持っている人やドナーさんが困っていたら、声をかけてほしいと言っていたけれど、それはとても勇気がいることで、それが自分ができるかどうかは分からないけれど、もしそれができなくても、町中で点字ブロックの上に何か邪魔になるような物があつたらそれをどけるとか、そういうのは自分たちでも、少しの時間でできると思うので、そういうことを私はやっていきたいなと思いました。

3組MY(男)：友達とかが困っているときに、積極的に助けてあげたりすることができれば、いざとなったときに声をかけられやすくなるんじゃないかと僕は思います。

6組FT(男)：差別する人とかいるけど、差別する人たちに優しさを教えるのが今の僕たちの仕事だと思いました。

4組HS(女)：私は少し前にあつた、人権を語り合う中学生交流集会に参加してきました。あの場ではいろんな中学校の1から3年生が集まって、いろんなことを話し合いました。そこが一番、人権について自分が思うことを発信できる場所だと思ったので、今回学んだことを心に残して、また次も参加して、このようなことを他校の人たちにも伝えていきたいなと思いました。

1組KK(女)：今後私は、目の不自由な人がいたら、「何かお手伝いできることはありますか」と声をかけたいです。でもなかなか知らない人に声をかけるのは不安ですけど、人の役に立ちたいので、勇気をふりしぼって声をかけたいです。他には車や自転車を点字ブロックに置かないことや、車のハッチバックを開けたままにしないこと、いつもと違うことがあ

ったら教えること、迷惑だから盲導犬に勝手になでたり、ものをあげないこと、などを心がけたいです。橋本さんの願いのように、世の中にはいろいろな人がいるということを心に留めておきたいです。

4組UM(女)：さっきOBさんが、誰にでも寄り添えるようにしてみる、みたいなことを言っていたんですけど、それを聞いてすごいなって尊敬しました。私もそうできるように、できるだけ人を避けないようにしたいなって思いました。以上です。

2組KT(女)：人権学習をする前は、生活の中であんまり考えたことなかったけど、人権学習をやってから生活の中で、こういうことがあったら目が見えない人も生活しやすいなとか考えられるようになってきたので、これを少しずつ行動に移して、ちょっとずつ自分もできることをできるようになりたいなと思いました。

6組FT(男)：僕は障がい者というものをもっと理解して行動してほしいです。いっぱい手伝ってくれる人ばかりじゃないので、もっともっと人というものを大切にしてほしいと思いました。

4組HS(女)：先ほどUMさんが、人を避けないように、なるべく人を避けないようにしたいっておっしゃったのを聞いて、私も得意な人とか好きな人とか嫌いな人とか苦手な人はあるし、いるんですけど、その人に関わる時に、いつも思うようにしてるのが一つあって、それは、その人を大切に思う人や、その人が大切に思ってる人がいるんだ。その人も、私が悪い面とか見れてないだけで、絶対にいいことしてるし、いい面もあるんだって考えるようにしてます。そしたら、その人のいいところを見つけようっていうポジティブな

気持ちになれて、あまり苦手じゃなくなったりして、避けないようにできるかもしれません。

4組GT(男)：目の悪い人以外に、足の悪い人や耳の悪い人を見つけたときには、車椅子に乗っているなら押してあげるなどと、時間があったら考えて行動に移したいです。

6組FT(男)：本で読んだことがあるんですけど、障がい者を助けるユニバーサルデザインというのを見たので、ユニバーサルデザインをもっともっと世界に広げてほしいと思いました。

《今、教室や家族、近所に困ってる人はいますか?》

藤川先生：人権学習をしてきたからの話

寒葉先生：欠席者の話

1組MO(男)：僕はヘレンケラーの「目が見えないことは不便ではあるが不幸ではない」という言葉に共感しました。確かにそうだなと思いました。目が見えなかったって、その人を支えようとする人、人だけでなく犬も。世界は少しずつだけど、体の不自由な人に寄り添ってきてるなと思いました。こういった講話が行われるのも、いろいろな人がそういった人に寄り添えるようにするためだと思います。こういった活動がもっと広がればいいなと思いました。

2組HG(女)：目の見えない人、見えにくい人だけではなく、耳が聞こえにくい人など、他の障がいを持っている人とか、普通の障がいを持ってない人も、誰でも同じ人間なんだから、誰でも平等に接することをしたいです。

2組HD(男)：困っとう人がおるんですけど。2組の人なんですけど。2組の人というか、

2組の人なんですけど。うちのクラス全然自主勉出ないんですよ。で、すごい最近、プリントとか自主勉の代わりにするようになったんですけど、それでも出す人が少なすぎて怒っとう人がいます。

1組KK(女)：先ほどの寒葉先生が言っていた学級日誌のことを友達から聞きました。そのとき私は、本人が頑張っているのにと許せませんでした。人のことを考えて学級日誌を書いたりしてほしいなと思いました。

1組IM(男)：目が見えない人や見えにくい人を障がい者というのは差別だと思いました。

2組OB(女)：私がされて嬉しかったことなんですけど、私自身いろいろあって、ちょっと変な時期とかがあったんですけど、それでもみんなが普通に接してくれて、そういう態度とかに救われて。自分はどんなんでもいいのかなっていうふうな。もちろん悪いところとか、そういうのはあるんですけど、それでもどんな姿でも、どんな感情とか持っても、自分はいいのかなって思えました。

3組ED(女)：今回の学習を通して、目が見えない人に声をかけるのは、とても難しいけれど、もし自分が全然目が見えなくて困っていて助けてくれなかったら悲しいので、困っている人とかいたら助けてあげたいと思いました。

3組YM(女)：この社会は目が見える人のために作られている。目が見えない人には不便だっている意見が出ましたが、私もそれに共感しました。目の不自由な人でも生きやすい社会になっていったらいいなと思います。でも一人の力ではできないことだと思うので、一人一人の障がい者、目が見えない人や何かが不自由な人への意識が必要だと思います。

3組TN(男)：困っている人やそうでない人の目線になって、その人に親切にしてあげることや、クラスの小さな親切が増えることで、人と人との間が和んで、人と人との間の見えない壁がなくなると思いました。

4組UM(女)：さっきHSさんが言ってくれたことで、その人を大切に思う人もいると考えたと、人を避けるのがなくなるかもって言ったと思うんですけど、それに、私今すごい支えられてる感覚がして。今HSさんに感謝しかないんですけど。私も考える努力をして、それでそれを行動に移してみようかなって思いました。以上です。

4組AK(男)：寒葉先生がおっしゃっていたように、教室の中の小さな手助けをみんながすれば大きくなると思いました。

4組AY(男)：目が見えない人だけではなく、耳が聞こえない人、病で車椅子に乗らなければいけない人、義手や義足になった人など、いろいろな人が生きている世界だからこそ、まずは僕たちが困っている人に向き合うべきだと思います。

4組TT(男)：僕は八万小学校出身で、ずっと中学校が始まったときは八万小学校の子ばかりといました。けどあるとき、八万南小学校のKHくんが話しかけてくれました。そのときに、八万南小学校と八万小学校の見えない壁っていうのが無くなったような気がしました。そのときに、そんな子が増えてくれればいいなと思いました。

5組KH(女)：昨日クラスの学習で、吉成先生が、みんなの感想を読んでいて、困っている人がいたら、もし見つけたら、って書いている、受け身の人が多くなって、もしその人がい

なかったら、みんなは何もせんのとのおっしやっていました。私はそこから、もし見つけたらじゃなくて、これから気持ちを入れかえて、自分で探してその機会を見つけないです。

5組YG(男)：僕は教室で一人で悩んでいたら、友達が助けてくれたのが嬉しかったので、これからは自分から困っている人を見かけたり、見つけ出したりして、自分も助けてみたいです。

6組KH(男)：最近のことなんですけど、よく外で遊ぼうって言うてる人がいるんですけど、その子とケンカしたり、たまには仲良く話したり、いろいろしたり、その子と一緒に遊ぼうって言ったり、話しかけることが、まだケンカしてる時に言うことがあるので、これからはケンカしてる時とか関係なく、すぐ仲良くなって一緒に遊びたいと思います。